

① 令和8年度マナビトゼミ 立教大学 経済ゼミ

「豊島区民が考える多文化共生社会」

授業の目的

今年度のマナビトゼミのテーマは「豊島区民が考える多文化共生社会」です。豊島区は、外国人住民の増加や多様な文化の流入により、日常生活の中で多文化が交差する都市になりつつあります。こうしたなかで多文化共生を理解することは、異なる背景を持つ人々がお互いを理解し、尊重し合うことで、安心して暮らせる地域社会を築くことにつながります。それは単なる共存共栄ではなく、対話と協働を通じて新たな価値を創造することにもつながるでしょう。

マナビトゼミで区民が主体となり課題を共有し、解決策を考えることで、多文化共生社会の実現に結びつくと考えます。例えば、言語の壁や生活習慣の違いから生じる誤解や孤立をいかに解消するのか、地域活動への参加をどう促進するのか、食の違いを通じて異なる文化をどう理解するのかといった具体的なテーマを議論し実際に調査してもらいます。こうした学びを通じて、「支援する側・される側」という一方向の関係ではなく、互いに支え合う対等な関係性の大切さを認識し、国際色豊かな街、誰もが憧れる街づくりを考えていきたいと思えます。

ゼミの最終目標は、多様な人々が地域の一員として参画し、それぞれの力を発揮できる包摂的な街の実現を考えることです。多文化共生社会の推進は地域の活力を高め、災害時の助け合いなどにもつながる持続可能なコミュニティ形成にも寄与するでしょう。区民一人ひとりが多文化共生社会の担い手となる意識を育み、豊島区の未来をより豊かで強靱なものへと導けるようなゼミを行いたいと考えています。

ゼミの具体的に進め方は、いくつかのグループにわかれ、それぞれのテーマごとにフィールドワークとグループディスカッションを繰り返しながら、受講生が考える豊島区が多文化共生社会を創り上げていきます。受講生の中には、フィールドワークに参加する時間が取れない人もいます。それでも構いません。グループのメンバーが調べてきた内容を客観的に評価することで、グループに貢献して下さい。全員が同じ力量・熱量で参加できなくてもいいのです。お互いできる範囲で支えあうことも「共生」を考える機会になるからです。

郭ゼミに求められるのは「豊島区を日本一の多文化共生の街にしたい！」という想いがあるかどうかだけです。多くの方の参加をお待ちしています。

期間	9月～令和9年1月 木曜日 19時～20時30分 全5回 ※最終的には2～3月にとしまテレビで学習成果を発表する（予定）
会場	立教大学キャンパス内教室／区施設
受講の方式	対面
講座の形式	講義／グループワーク／フィールドワーク（できる人だけ）
定員	30名程度

※希望者多数の場合は2年生を優先とし、研究生は抽選となります。

※状況により、会場、開催方法、日程、内容が変更になる場合があります。

※多文化共生を考える5つのアプローチ（例）

① やさしい日本語の活用

外国人でも理解できる「やさしい日本語」とは

② 地域イベントへの気軽な参加・声かけ

祭りや防災訓練、清掃活動などに外国人住民にも参加を呼びかけるには

③ 生活ルールの共有と相互理解

ゴミ出しや騒音など地域のルールを理解してもらう

④ ボランティアやサポート活動への参加

日本語学習支援や子どもの学習支援、地域の相談活動などの構築

⑤ 「違いを楽しむ」意識

食文化や言語、行事などの違いを前向きに受け止めるには

※最終的なアプローチの仕方は第1回ゼミの際、受講生と話し合っ決めてたいと思います。受講生の皆さんは事前に考えてきてください。

第1回：9月10日（木） 19時～20時30分

会場：未定（豊島区内施設を予定）

内容：概説、グループ分け

第2回：10月15日（木） 19時～20時30分

会場：立教大学マキムホール(15号館)2階 M202教室

内容：発表①（前回からの間に調べたことを発表、講評しあう）

第3回：11月12日（木） 19時～20時30分

会場：立教大学マキムホール(15号館)2階 M202教室

内容：発表②（前回からの間に調べたことを発表、講評しあう）

第4回：12月17日（木） 19時～20時30分

会場：立教大学マキムホール(15号館)2階 M202教室

内容：発表③、学習成果のまとめに向けて（前回からの間に調べたことを発表、講評しあう）

第5回：1月21日（木） 19時～20時30分

会場：立教大学マキムホール(15号館)2階 M202教室

内容：学習成果発表会

※第5回は、関係者と調整がつけばシンポジウムのような形も想定。

※2月～3月に、としまテレビで学習成果を発表する。

講師 郭洋春氏

立教大学経済学部特別専任教授。専門は開発経済学、アジア経済論。現在は人と人、人と自然、人と社会との関係性を見直す平和経済学を研究中。
豊島区商工政策審議会委員長。



参考文献・テキスト

- 『100均資本主義～脱成長社会「幸せな暮らし」のつかみ方』
(プレジデント社、2022年12月、国際アジア共同体学会岡倉天心記念賞授与(2024年3月))

著書

- 『経済開発の過去・現在・未来 開発経済学の果たした役割』(文真堂、2023年5月)
『国家戦略特区の正体 外資に売られる日本』(集英社新書、2016年2月)
『TPP すぐそこに迫る亡国の罨』(三交社、2013年6月)
『現代アジア経済論』(法律文化社、2011年11月)
『開発経済学』(法律文化社、2010年2月)その他多数

②令和8年度マナビトゼミ 帝京平成大学 心理学ゼミ

「心理学の専門家から学ぶ-自己を知りハッピーに生きる知識と技術」

授業の目的

日々の生活や仕事の中で、人間関係をもっと良くしたい、充実した時間を過ごしたいと思っている方のためのゼミです。座学と誰でも出来る簡単な実技練習（ロールプレイなど）を通して、日常生活で役立つ「自己を知りハッピーに生きる知識と技術」を学びます。自己を知り、他人との関わり方を学ぶことで、誰もが住みやすい地域づくりとは何かも考えていきます。

期間	9月～12月 金曜日 18時30分～20時 全4回
会場	帝京平成大学池袋キャンパス MiNoRi ラボ 3階 304/305教室
受講の方式	対面
講座の形式	グループ討論
定員	30人（マナビト2年生、マナビト研究生）

※希望者多数の場合は2年生を優先とし、研究生は抽選となります。

※状況により会場、開催方法、日程、内容が変更になる場合があります。

授業の内容と日程

① 9月11日（金）18時30分～20時

「オリエンテーション（ゼミの計画とコミュニケーションの基本を解説します）」

講師：安西 信雄 氏（帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授）

自己紹介でお互いを知り合いましょう（だれでも出来る超簡単な自己紹介のしかた）。コミュニケーションの基本的スキル（軽い世間話、傾聴する、褒める、人の話を否定しないで聞く、頼み事をするなど）についても練習しましょう。

② 10月9日（金）18時30分～20時

「考えを変えるヒント～少しずつ気持ちが軽くなるために～」

講師：江口 聡 氏（帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 講師）

日々生活をしていると落ち込んでしまったり、不安になることはどうしても起こることです。落ち込みや不安は考え方を知り、考えの引き出しを増やせると少し軽くすることもできます。この回では、自分の考え方の癖や、考える工夫を一緒に学んでいきましょう。

③ 11月13日(金) 18時30分~20時

「さわやかな自己表現 ~自分も相手も大切にするコミュニケーション~」

講師：軽部 雄輝 氏 (帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 講師)

私たちは、家庭や地域の場面で、さまざまな人と関わりながら生きています。自分に過剰なストレスをかけずに、かつ円滑な関係を築いていくために、「アサーション」の考え方を通して心地よい人間関係のあり方を一緒に考え、日常で使える伝え方を練習していきましょう。

④ 12月18日(金) 18時30分~20時

「happy なコミュニケーションのコツ」(ふりかえりとまとめ)

講師：岩藤 裕美 氏 (帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 准教授)

第1回から第3回のゼミで学んで、変わったこと、変わることができなかったこと、やってみたこと、やってみたいことなどを共有し、ふりかえります。最後にまとめとして自分のイメージを知るワークをグループで行い、自分も相手も happy になるコミュニケーションについて一緒に考えましょう。

会場

帝京平成大学 池袋キャンパス MiNoRi ラボ (豊島区東池袋4-26-10)

3階 304/305教室

- ・池袋駅東口から徒歩約10分
- ・東京メトロ有楽町線 東池袋駅2番出口から徒歩約5分
- ・都電荒川線 東池袋四丁目から徒歩約8分

※建物の名称が令和7年度より変更となっております。



シラバス

③令和8年度マナビトゼミ 人間文化ゼミ

「童話・絵本に学ぶ共生の知恵～ひと、生き物、自然のつながり」

授業の目標

世界各地には人間と自然との関わりを表現した童話や絵本があります。それらの中には、人間と他の動物との関わりを描いたもの、動物をキャラクターにしたストーリーなどを通して人間社会を深く抉り、また人生の機微を描いた作品もたくさんあります。令和7年度には外国の童話・絵本を題材としてゼミを進めてきました。令和8年度は、日本の童話や絵本を読み解きながら、人間だけではなく動物や自然を含めた多文化共生の知恵とヒントを探ります。

授業の内容と日程

授業では二つのことを目指します。一つは、受講生の皆さんに、豊島区立中央図書館のウェブサイトにある本紹介コーナー「本のソムリエ」への寄稿にチャレンジしてもらうことです。もう一つは、各回の題材について読み、話し、考えたことをまとめ、日常の行動に活かすヒントを探ることです。声に出して作品世界を味わう「大人のための読みきかせ」なども試みます。幼い頃にふれた童話・絵本との出会い直しを通して、共生の知恵を作品世界の中に探っていきましょう。ゼミの特別活動として、日本在住の海外出身者による童話・絵本の紹介講座・多文化交流会も開催する計画です。

期間	7月～12月 火曜日 19時～20時30分 全6回
会場	としま区民センター／地域文化創造館 他
受講の方式	対面／オンライン
講座の形式	講義／グループワーク
定員	20名程度

※希望者多数の場合は2年生を優先とし、研究生は抽選となります。

※状況により、会場、開催方法、日程、内容が変更になる場合があります。

①7月28日(火) 19時～20時30分 会場：あうるすぽっと会議室B

- (1) 読書体験の共有の意義 — 図書館通信「この本カフェ」・「本のソムリエ」を読む
- (2) 童話・絵本を読むこと — 世界の諸相を表現する童話と絵本の深み

【宿題】童話・絵本にふれてあらためて見えてくることを600字程度でまとめる。

②8月25日(火) 19時～20時30分 会場：あうるすぽっと会議室B

日本の童話を読む：日本の童話から1、2点選び、それぞれの解釈を共有する。

【宿題】グループワークで議論したことを含めて、学んだことを600字程度でまとめる。

- ③ 9月29日（火） 19時～20時30分 会場：としま区民センター 701～703 会議室
日本の童話を読む：日本の童話から1、2点選び、それぞれの解釈を共有する。
【宿題】グループワークで議論したことを含めて、学んだことを600字程度でまとめる。
- ④ 10月27日（火） 19時～20時30分 会場：未定
日本の童話を読む：日本の童話から1、2点選び、それぞれの解釈を共有する。
【宿題】グループワークで議論したことを含めて、学んだことを600字程度でまとめる。
- ⑤ 11月24日（火） 19時～20時30分 会場：未定
日本の童話の構造、特徴、エッセンスを、世界の童話文学の中で検討する。
【宿題】グループワークで議論したことを含めて、学んだことを600字程度でまとめる。
- ⑥ 12月22日（火） 19時～20時30分 会場：未定
総括学修：1～4回で扱った作品から一つ取り上げ、グループで朗読し相互講評。
*「ゼミ成果報告会・朗読会」も活動の予定に組み込みます。

講師

佐藤 壮広氏（さとう たけひろ）氏

山梨学院大学共通教育センター特任准教授。立教大学文学部兼任講師。
人類学、表現文化学者。表現文化の実践および沖縄文化研究。
豊島区立中央図書館「図書館通信」の「この本カフェ」を監修。豊島区在住。



使用予定テキスト

とりあげる作品リストや購読資料は、随時、紹介・配布し、受講生と相談の上で選書も行う。

④令和8年度マナビトゼミ 大正大学 歴史講座

「関東・東国の歴史―地域を見る目―」

授業の目的

我々が現在生活する豊島区や東京都を含む関東・東国は、古来より都のあった畿内からは離れていましたが、明治維新以後は首都、それ以前の関東も、近世では江戸幕府、中世では鎌倉幕府や鎌倉府が置かれたように、政治や文化の中心地の一つであり続けました。さらにそれ以前の古代でも関東には都と関係をもつ豪族のもと、大規模な古墳群が築かれるなど、多彩な営みが行われてきました。本講座では、そのような多彩な歴史を持つ関東・東国の歴史に注目して、日頃より生活する我々の地域を見る目をより豊かなものにするために、改めてその歴史を見直していきます。

期間	10月～令和9年3月 土曜日 10時30分～正午 全5回
会場	大正大学キャンパス内教室
受講の方式	対面
講座の形式	講義
定員	50人程度（マナビト2年生、マナビト研究生）

※希望者多数の場合は2年生を優先とし、研究生は抽選となります。

※状況により、会場、開催方法、日程、内容が変更になる場合があります。

授業の内容と日程

① 10月10日（土）10時30分～正午 会場：大正大学5号館5階551教室

「鎌倉府と関東の戦乱」

講師：木下 昌規 氏（大正大学文学部歴史学科 准教授）

室町時代、関東では度々戦乱が発生し、全国に先駆けて戦国時代に突入しました。そこでこの講座では、東国統治を担う「鎌倉府」と関東での戦乱についてみていきます。

② 11月14日（土）10時30分～正午 会場：大正大学キャンパス内教室

「江戸の仏教 ―豊島近郊の信仰―」

講師：櫛田 良道 氏（大正大学文学部歴史学科 准教授）

江戸時代における、仏教について豊島近郊の寺院を題材に解説します。仏教が本来担うべきものとは何なのでしょう？江戸時代の社会の在り方を通して考えてみたいと思います。

- ③ 令和9年1月9日(土) 10時30分～正午 会場：大正大学5号館5階551教室
「古代武蔵国豊島郡と東国の郡衙遺跡」
講師：藤木 海 氏(大正大学文学部歴史学科 教授)

豊島区の地名の由来となった古代の武蔵国豊島郡。その行政を担った郡衙(郡役所)の遺跡である御殿前遺跡の発掘調査成果から、律令制にもとづく支配の実態に迫ります。

- ④ 令和9年2月13日(土) 10時30分～正午 会場：大正大学5号館5階551教室
「豊島区の歴史地理－地図から読み解く景観の変遷－」
講師：中嶋 則夫 氏(大正大学文学部歴史学科 教授)

地図などの資料を使って地域の変貌を読み解く歴史地理学。手軽に見られるWeb地図などを使って豊島区の景観の変遷をたどってみたいと思います。

- ⑤ 令和9年3月13日(土) 10時30分～正午 会場：大正大学5号館5階551教室
「豊島区における55年体制の成立と代議士」
講師：車田 忠継 氏(大正大学文学部歴史学科 准教授)

豊島区、そして、この地を含む旧東京都第5区の代議士は、55年体制の成立にどのように向き合ったのでしょうか。当時の新聞や本人の回想などから明らかにしていきます。